



廣益俗說辨卷九目錄

公卿

一

田村利仁異國と征を防と死不動明王より之承認附
田村利家社庶乃鬼と云い承認

訂補

二

百合若大臣しくモテアモ退治承認

訂補

三

左京源平須磨浦小かくはれ松風村より達致

訂補

四

立木業平卒年三十をわざひの累天と云ひ承認

訂補

五

蟬丸ハ延喜帝第十四ノニ生育日守り承認附 四支繁

カタハラ死

訂補

六

源王從基禁座よもて席伏射う死

廣益俗說辨卷九

補 紀實定冠代廢して貫之とわくひも後

補 平洋盛雷小松毛野後

補 太政大臣師長入唐乃汝活此後
新源實羽公曉よ林モアモ後

廣益俗說辨卷九

井澤長秀 輯錄

公卿

一 田村利仁異國代征とほと紀不動門とゆゑて有後
附 田村利家於廉乃恩代有後

信後云坂上田村丸利仁を征めとて數萬の
兵船を以て無船數百艘より來て打合して度らず
不勤明王と大ねとて海上によをひて始せりひ終ふふ勤
うち勝て利仁とうち捕とり又云く利仁の子よ伊奈
み郎田村利家とてわうーク勅代奉つて擧列於廉小
の大竹丸とつ鬼とくの大竹丸大にとて小立竹丸

只あ創カタをとて放スルあくかよとて田村ミタケと利トシすうとあひゆ
もととて終廉ミタケ山ヤマの藤フジよ終廉ミタケ御ミタケノミコトかくらの女ミツメよとて利
宗ミタケノミコトもそつ小通スラと大行カウ也モトと急ハラ想ハラハラしけ放スル田村ミタケあ
かくらの女ミツメよとて大行カウ也モトと急ハラ想ハラハラしけ放スル田村ミタケあ
まをとて終廉ミタケよとて大よあカウかくで譽スル射スル二つ弓ツブタガ劍タガとねを
あひけアヒケ化ハシメ田村ミタケウ舟ボウモモとて大カウ規スル名ナミあくまれ譽スル射スル
ううウウと毛モりよ

今按アリふよ坂上カミ田村ミタケ唐カタと利仁トシキとふ一人よほシテ別人
なり姓氏錄續ヨリシテ日本紀ニホンノキよ接スルに田村ミタケハ後漢靈帝代
後アフタゆて坂上カミ田村ミタケウ子孫サカニ後像アフタシヤウ天皇アマニ乃ナ所字スル大カウ人ヒト也

大系タケシ考アリ利仁トシキハ大藏タクシ冠カミ孫ヌシ足タマ云ク代タメ後漢コラヒニ唐カタ
守府ミタケね軍クニ後アフタ時長タチヨシウ子醜タコ天皇アマニ乃ナ御宇ミタケ久人カニ也
但タシ續タシヨリ日本紀ニホンノキよ坂上カミ大カウ恩エニキ寸カナ前田マツダ呂ロ等タタタ上表カミタケ言
臣ミツメ等タタタ本タタタ是タタタ後漢靈帝コラヒニ之曾タタタ孫ヌシ阿智王アシノミコト之後タタタ也タタタ譽スル田
天皇アマニ神ミツメ御宇ミタケ歸化カタマリ來朝カタマリすタタタ翁カニ此見ミタケ也タタタ也タタタ漢カニ
皇アマニ後アフタゆて日ヒが城化カタマリ人ヒトなり此見ミタケと少タタタてタタタり爲
うタタタ少タタタ見ミタケとタタタわタタタやタタタ又タタタ不タタタ勤タタタめタタタにタタタうタタタと
終アフタ也タタタ承タタタ方カタ月ツキ日本後紀コラヒニ云弘仁コラヒニ二年五月丙辰カニ
大納言正三位右近ウミツ大將カタマリ兵部卿ヒサギ坂上カミ大宿タクシ爾タタタ田村
麻呂薨コラス於栗田カタマリ別業カタマリ時年五十四タタタ田村麻呂マツダロ從タタタ三

西漢書卷之六

佐左京大支兼右衛士督苅田麻呂子正四佐上
犬養孫身長五尺八寸一ト書五作レ七胸厚一尺二寸耳
如蒼鷹鬚編金絲有事重身則三百十介飲輕則
六十四介隨心所欲口立志元補田村麻呂傳云身長五尺
之如偃背ノリツクシタウタミ怒目轉視禽獸帽伏平居談笑則老
視之如俯ノリツクシタウタミ少馴親ヒタチ田村麻呂傳云怒則
則舒眉稚子早懷雜々記云弓ヨリカミ箭ヤミ石中三
尺と射アサシ毛モウ也モウ又因村丸乃子よ伊奈激以
十六町ハヂマチ
名利家ナリカミとくわわうと接アツシテ日本後紀續日本後
紀大系圖考家よ因村丸乃子ヒタチマツルノコ伊奈激以
米久布ミクブとくわわうと接アツシテ又經廉山乃大竹丸ヒタチマツル來取アラタク

少子賀茂天皇大神文獻記云弘仁元年平城天皇
至祚ノ御内宮ノ事也補平城天皇之御作御内宮
也先王之故御内宮係歎力日本後紀云其弟有二女
者余種継之女中納言者余繩至とく素也有三男二
女長女大上天皇室の右子時召遷入宮其母藥子
東宮宜肯出入卧内天皇私焉徵為尚侍巧求
愛媚恩寵隆渥所言之事無不聽容

ぬく神力とす人材可九軍者。總一山を効懸と仰
ぞもじにて終ふ先帝の軍やも大内軍益小仲成
字令曾孫種継長みとくちと防とまく小日本後北高
右兵忠智後四位下えぬ迄至立本高良治名レアロ
死ス一本云第四十奥列アモル也魚猪支等代賊徒と深
きに及ぶ事無事廢て廢化キテきのク又經廉御前を
諸神系圖より併サナリ

て佐役乃ちやまうを教へ此條加訂補

二百余君大臣ユリよりさかの追活此役

佐役云源承天皇代御宇豊後の國アラシ後よマホトス及ム先
而公系大臣とて人強力夥云於アモクアツカ日不減數時

而合義物伏アケ給ひてをせむひじくまつめ
射さう一帰朝よ及ひて家臣別府とく者叛遂し
大臣と元界得小すそ並坐後よアケ西城押領を大臣
而魚よ海土船よ多すきめざすと云國一別府とく爲
は一國城治ひと云傳入參後府因よ大臣像カクモ造
小縁先モアニ舊代祠モ行うとス

今按移よ百余君大臣ノ事ニ史實錄及公卿補任
多卑分脉等あと見と但一豫章記河井新小字豫章
乃領ミ三並とつ者神功皇后三韓征伐ノ事の先
鋒ナウソシモ九代よ百里十代よ百里とくをの

而男ウニ益躬蒙古日本ノ襲來ヲ一時推石帝の
勅使奉てモセシトハ賊乃恩首鐵人を射殺と益躬
ク孫玉真子細カツテ捺引羅波ノ流刑キル後モ侵松
ト得て帰國と益躬ノ未葉河せク一族族ノよ別府と
リ主のねねー歷代皇紀編年集成八幡恩童訓等
と考ふよ弘安四年蒙古より高勾麗と案内者セ
一て日本と號シシ庵前將多モ大風よわ人船家
通く川アツテ死焉者多シ同少志摩郡鷹鳴_{玄界島}海
元史五龍山トカラスルカツトシモアヤモテ敵乃大乃范文虎
ケ移の事浮上篠原風雲死焉者多シトシモアヤモテ敵乃大乃范文虎
等モヨリシ於我多シヒのりカアトワリシトシモアヤモテ

蒙古高勾麗ナリシ通鑑東國通鑑北史小通
勾麗と書一後漢書綱鑑ノ全書小ハ高勾驪也
記載中原康富日記による勾麗とくアト訓セ名
同抄ヨリ本音リト乃モ西峯翁云高麗世為日本
人到干今罵異類曰牟苦利骨附庸而終黨蒙古故日本
叫離乃蒙古高勾麗之轉音也_{附庸}不名ナシ百合名大
臣ク率ハ毛髮比絃子搔て必出一け血トカセモ
傳ヘ好車ナガ若墓名ハ築キトシ人此條加訂補
三在奈良平次摩浦よがなれ松樹名ト連況
佐渡云中納吉在奈良平次人名修ヨリ也接海四
次摩浦よがなれ松小松樹名トツ姉妹代號也

カイーと行幸されどもと其後勅免残かぬ。國の
花、さわが後事も山高峯より生れ。ま
くまもと御ノ家とかうも成ニ女よ御。至れ
るは故ニノ名わまが平と立てがみ。今ハな
なれ。正解ハわとゆきともわらす。もの候とぞ。
ウタシと名冠代か。行幸女と名とどけ半と甚
得移列よれ。

今樓子の行幸次第の浦より流。幸ハ半とぞ。
松風村の事ハ歌なり。後撰集より仁和帝後。傳
乃例也。行幸ノ後。一日在原行幸御。是山

行幸半とふ。芹川乃半造。方ゆ。行幸わき。
因。日鶴銅也。狩。御。たり。と。に。寝。り。と。ば。ね。へ。多
か。た。ま。け。れ。ま。せ。び。ん。お。う。め。そ。か。り。う。み。そ
ご。う。じ。と。と。因。寝。の。なく。お。れ。行。幸。れ。み。の。日。か。じ。は。仕
乃。妻。半。モ。モ。り。と。け。ゑ。と。カ。イ。粉。え。れ。ハ。光。孝。天。皇。御
歌。う。芹。川。よ。行。幸。れ。花。な。り。行。幸。は。花。紀。六。十九。年。裝
束。ア。つ。く。も。と。ひ。も。仰。わ。と。防。と。と。八。月。七。
小。召。ハ。か。多。御。体。も。ま。う。と。も。あ。う。と。お。と。
か。か。よ。帝。御。か。一。み。千。セ。よ。か。せ。終。ハ。ま。う。と。よ
失。系。と。不。吉。よ。お。ゆ。一。聖。年。行。幸。と。次。度。に。遙。

トモキモトモレル中納言カミノミコトが御オホてか
モカモカソリ落成タクセイとアシムトアリハ既ヨリ附ツブ合スル
松風村マツフジムラの事モノと波ハシくらまきかめや又立タチツモツカツの
みゆよ生アヒムアリテアリ平ヒラ取ヒラフ集シテヨイナミタニ守カミか
アリテタマシ文德實錄云齊衡三年正月丙申は
從四佐下シテシテシテシテ在原羽ハラ行平ヒラヒラ為スル因幡守イハラミサキ守ミサキ
乃うりけれよアノヨリテはうそハウソ候スルトアキハ務ハサシタ列ハサシタ
キトモアシアハ行ハシタト又アシタガトミテ今ハわハシタカ
の歎イヤヤ往モカカリ物語モノガタリよ乃ハシタトて端ハシタおのレキモナカ
業平ハシタに於ハシタモアシテモナカトヨ事モノ経ハシタシ老ハシタ見ハシタ

四 在余業平率去代年三月とわうひ日昇天すと之後
信後云在余業平ハ率去乃年三月とほわうひハ仙術と
おもむいて昇天せりとす

今接取ふ三代實源云元慶四年五月廿八日辛
巳從四位上行右近衛權中將兼美濃守在余朝
臣業平率すとわうひ大和國石上在余山光明寺
其葬地乃ト相傳玉葉集よ在余寺すとて從三位
位ゐるかくらり其名あつて在余乃ひうひ経成
見あむケルととわもハ信後乃相送と云ふ
又 蟬丸ハ延喜帝第四をもみて肩日せりと云

傳說云蟬丸ハ延喜帝弟第四をもなりうすにしきがくの肩
因ゆもく尾聲と彈一弦すと御姉よ達蟹えゆて
有一ハ蟹うゆよい生お経つて延喜帝業障懺悔代
坐免ゆとて達蟹と男山よすて蟬丸が相吸小アテ経
古経よすて後世王吸と書一曰亥河原の名わり
鶴三位ノ於く逢坂よすて蟬丸よ琵琶とかくと云
今接取ふ三光院尼の法院よ世人蟬丸伏肩因と
えはうやまうねり後接集よ相吸代國よ名之故に
ますみ侍りかゑみと處行すと見てもあはれこれやあれ
ゆくを契ちもとくいふもとまくねりのうる乃と云

やまうりかゝ人と見てとわすて盲目かくみが代す
魚一又延喜帝の宝みとしれ教院ハ深徳たり古今
ふげんあさこより延喜五年より今集大藏撰魚子
ノ紀醍醐帝御とわの年二十三歳ふをせ詔よ成るて
傳残志多へーとぞ。補 宮扇抄云舍坂の園の詔
虫ヤハヒト代操丸本朝遜史云蟬丸ハホアマ敷寛親王の
難色ありて琵琶と弦を磨り拂ひと
とももかまくむつわとめうーとすしてそこへ
詔とならてすと経ふたまべーひくらか帝乃
御使小て和琴ヨシの良峯家貞ヨシモサスリ良少ヨシマツとてひ
きんほどの半までねじひようひてひみくこそゆ

方丈記云かくみとれ教院ハ大てけ後毛なクヘーとぞ
良峯家貞ヨシモサスリとぞとくふ
小世継ヨロシ小物雅三位本懐ヨロシよすら教育傍よ覽題と
琴カタとわう経済して謬ヨシモサスリと竹カタかく
雅三位を延喜帝乃孫ヨロシナリ時代大よ相送ヨシモサスリと連發
乃季充姫統ヨシモサスリ國史小野紹運ヨシモサスリ也とくとくと玉
坂四支ヨシモサスリの車外ヨシモサスリなり 補 日本紀云仲哀天皇
御宇武内ヨシモサスリ宿補追忍熊王遇于坂也ヨシモサスリ上代
うち逢坂ヨシモサスリ名ヨシモサスリ多ヨシモサスリとくめてかせらくみげヨシモサスリかかくろ
三弓山ヨシモサスリとまくらすヨシモサスリとくらばとわ毛延

志より四支の御事と曰ふ。四支北名わゆると曰ふ。雍州府
志より四支の御事とハ仁祖帝第四支人康親王の舊跡
を承取る所すと記す。此條加訂補

補 六孫王經基禁庭よりいて唐城射後院

信統云六孫王經基禁庭より作成し御庭といひ。之
ちも本丸等に之をもとと廢して三巴からぬべあ神
をうちと經基三郎と射らうし後院と云。

今核よりは後院と一様。今昔物語より三條
院春文小て東三条より西へかけあとをわざ衣寝殿の
異なりを取西乃櫻より流れて居ますわふ。源松

傳 一そりき仰て春冬御弓と墓因城の處を
かの箭射とも仰せられ光ややうか良きのハ征
參よそもう仕事とあつ小弓のうちく墓因ハたまつ
うて射りてらと辯一糸を左御ゆくかまひハ級
テアカゲラ表衣代神代まううとサ一姫を引
あて立かひよらよまと後院よりうそまほまほ
ねうう姫まうれつとあく御威りうて御弓代松光よ
賜ふとわうげ後院よりまう姫をのなう

補 紀實定冠と廣して貫之と改称

信統云秦氏帝乃御と號よ紀文幹うる寔室城御事よ

やまかよかの段がぬまかとて御代席カタシマツルキテ
も矣すか非禮ヒノリの所シテりわんとくわきゆく
思スルふ冠カブとれレテ紙シて今ちハ紀キの史シ
と先サヘ一イ事サハかうシテかすシテ虚ウせは歎感カクガり
かうシテ則ソラ付シ中シねふをシ。

今接シテはけ後ヒテを非ヒたり宣アハ代シ字シの冠カブと除リまで之
乃字シと思スルと御ミササギ字シとて高シ字シとて高シ者
比ヒ妾ミササギなり右シテの然リ代シ鄙リ有リ妻ミササギ之シテ奴ミササギ也シ
うシと弟シテの辱シテうシは既シテハ盛シテ衰シテ記シテよ一シテ柔シテ院シテ門
宇シテ小大納シテ云行成シテ古事記シテ云行成シテ守シテ侍シテ中シテた

ちシテけぬシテ系シテ因シテのわシテ実サハタ方シテ中シテぬシテ系シテて小聲シテ
而シテよ筋シテ而シテまシテけぬシテ因シテのわシテ意サハタ趣シテハあシテと実サハタ
笏シテ代シテ取シテして行成シテ乃シテ冠カブうち簾シテ一シテ小簾シテよなシテけシテ
てちシテけシテ既シテよ行成シテハさシテく候シテ多シテ處シテ司シテ城シテてかシテうシ行
おシテせシテ實シテ方シテをシテ冠カブしてシテうシがシテ本シテよ行シテそシテやシテ牙シテ
覺シテへ行シテ至シテ放シテとシテけシテまシテぬシテりて報シテ養シテひシテんシテい
それまシテとシテ上シテ小シテ蔀シテアシテトシテ御シテ從シテて行成シテ
糧シテ後シテ乃シテものなりと歎シテ感シテよあシテうシ人シテ歌シテよなシテれ
實サハタ方シテハ欽シテ極シテ志シテまシテとシテよし陰シテ奥シテ上シテ流シテ又シテ訓シテ抄シテ
とシテわシテ代シテ要シテ之シテ事シテよほシテナシテ紙シテ一シテきシテ物シテのシテりシテえ

母之中ねよすりと冰なり糸加草紀貫之傳云貫
之大和守文幹之二男也。元慶八年甲辰十月生
童名内教坊阿古久曾。延喜五年與大内記紀友
則前甲斐少目允河内躬恒右衛門府生壬生忠岑
奉敕撰和歌古今集六年任木工權頭叙從五位
上御書所預也。天慶九年五月十八日卒享年六
十三とわきとも中ねよ仕されよろづと六月と

補 平清盛雷よむそゆ段

俗說云仁安三年七月平清盛入道淨海捺列布引
乃あき是物のとれぬよ雷なりて淨海取人羅波

経房之上よ唐かうまでうちううせーうが入通も弘法大
師の筆代ちふうけうも半うりし伏れそうくさのわま
みうのよかまかぐくせゆくやくとくとくとく
今接みよんよ別膳かー氣よ進退あり理とわきま
へぬ毛ハラスハアシテミミ理とくとくまえハシ
サヒカツテ退きう理よく幸よわすして生残
ひきゆう死体ねそゆもハゲうすへ考ふかうんよ
射てハニモうり勇わうと尼ねあ者雷霆幽靈天狗
妖物をも又ハソウ伏うかれてねそゆものわうれ
明ハ刻よ幽よハ狂せぬなり魏の曹操めすけくい

さくらかくとも雷より松原に幸うとわきハ清盛キニモリいた
えりあるて一書シヨウを譲ヨシて元生エヌイ有余アリヤとどもしきは
何故ナニかタチ生き何ナニともタチし
ひそそくヒソクてゆくムクはわざハサワザのノ風浪フウラウ
カレカレ伊川先生イケイセイジン傳ツバメよ
ひそそくヒソクてゆくムクはわざハサワザのノ風浪フウラウ
タラシミタラシミ伊川先生イケイセイジン傳ツバメよ
又アリかれてカレタクて御文庫モジモンコ

通 太政大臣詔書長入唐乃汝詔行
俗絶云太政大臣詔書長ハ天下にかくびかく琵琶ノ上よか
うハ入唐のをみやうてまざら拂引ヨト向ス
ス

宿
宿屋の宿一宿の宿れわが身、老翁老婆うちも
かまうるのまみよまをせ見る邊とひきあひふまおち仰もの
やまゆゑも老翁の見る邊ゆゑも老翁ハ琴ともまよ感
まむれふまうりから而長たよおまうまわきと月かゆく
見る乃奥縁と引き先いゝまうりかまんとえ
一ふ思ひふむかゑよすわゑてよすわ後唐と云ふま
せねほして乃翁一ウタ多岐向路ゆよ今もすすめゆ
處さわきよ上より至すらモ一村上天皇梨垂女御をも
御身入唐うらうとあふわくそれうそとかたけどとく
う撫う木桶と帝乃御す小三面乃見る

是うと山御子也玄上とあり

今後又よは後承たり源平盛衰記云治承三年十一月太政大臣師長と尾張西井六田より奉行わ
多附あ國難同ノ御内移よまうて改ひよりすく詔因
乃納支のち小法施と申向をもりて後よハ尾張と
治承ノ御行念と称りておもく物と作る也次
厚あつて御尾邑とかまくしてよ玄石象とソノ祕曲
と稱しすキテ後つゝ化神明代感應とねばえて
寶庫大よ執拂ヒ而神化してゆきまく今強
後よそうか祕曲感よまくと經向すア君死布よす

後よそハソテウヒ祕曲と云く御前御系代所
か一か事と申位よ後ト後よヘト御行宣わ
又云村よ天皇代御宇わゆる玄象トウ尾邑と深
並るよ虛空トリムナリテ神ミ大唐北尾邑代將士
廉承武からと申玄象代ニ曲と申行を奉事と
わうけ後よアリテ安化せばものかく
新源實朝云曉よ絃アラ易く

後後云建保七年正月廿七日右大臣源實朝病至八幡寺
多附よそ少宗義御内移大後半ヨリテ神氣よらしく
時大いアニ趣よとカニテ公祚惱乱アラハカ伊豆藥師十

二神代内成神乃若わく一神体とひわくせゆる仲業
よ内敏とゆく退出とゆか放寔朝と一時よ仲業きよひ
義財が寺陽の感一某院堂と建立とゆく
一書ふるく小條義財猶捨てて甚廢りとぬを參
よりと色實羽源氏の統ゆくして大樹の位よあくそ
舊臣は猶とがくほく放逐後とがくひまくふすらみ
わくも既に往ようくて実羽と殺して初々伏見原小
島の篠金代ミヤシテ御主程とがくひまくにえん
アモ伏見の家へ擴住木ノ久とゆきのとほく一ム暁
伏見とゆて實羽と殺せしひと化との事也後は據て

ラム小條時改義時等すとて天下伏井吾と分れ公
わづてねのうさぬまけとなくへあゝ和田畠山等と深一
実羽とぞのて村家と害一 村家伏見住候ほかよそにて
村家代子若然と傷と死一ム暁と号して瘞忌小
弟一やんとて公暁とぞくめて實羽とぞと一や甚
敵かうとて公暁と珠マツハ实羽の血脉とちぢれ
小政経一ね毛のりとれ朝倉方荒れ義経よエトとくと
殺害一かくで少糸あふうむれらる毛のりれらのね軍は号
あくとゆと天子ハねのつゝ小糸家代掌す極と云れ
実羽殺害一わのひ跡の御義時かくてム暁と名と食ら故

病と称して退出り世人の多くはとておめまびの
害虫の如きハ薬師佛力か護りとておめまび薬師
堂が建爾名代からせらむとえ一世滅へとくと
りても宣々萬世延年無事也

廣益俗說辨卷之九

廣益俗說辨卷十目錄

士度

一 浦源子蓬萊小いそり三百四十餘年と經て

新藤原千方の後

同 都良香仙才の後

附

羅生門鬼の後

二 優秀卿三上山房螺蛇と射る後

附

同人病の後

村後

司補

三 菩提文將門退刻り賞を失と恨て惡靈とちる後

新年維庵の隱山の鬼代生ア後

後あり

四 信太小太郎の後

八 你於先酒顛童子と付後附土物殊の後

補 賴光家尼四天王一人武者此後

補 渡遙綱桐馬良介と付後附綱詠被此後

新 同人宇治橋娘宇多森鬼羅生門鬼と斬後

同 公時ハ氣の勇士也と院

訂補

廣益俗說辨卷十

井澤長秀 輯錄

士庶

一 浦鷦子蓬萊に、より三百四十餘年を後、帰後
信後云雄略天皇大御宇に丹後國餘社の人の水江浦
信子船よりて大急と付後附に化^ケ化^ケて、
すか浦信子は舟をよみ、蓬萊より、三百四十餘
年後、信子は淳和帝の御宇天長二年より、すか浦
或云日本紀云雄略帝の御宇天長二年より、二十二年七月丹
後國餘社郡管川の人水江浦信子蓬萊よりと
ウ舍人親王の日本紀と奏上せし所ハ元正帝也

養老四年五月廿一日と續日和紀よりくまれハ被浦彦
みう蓬莱よりゆき来たと日本紀編纂れ奉るあり
もくすハ親王何よもて浦彦蓬莱よりあると
號を名もんや浦よ聖武代朝よりされしもの
へるも葉集よ浦彦古て小刀まで死をうる
みせらる紙刀をハ至後百餘ひと絆て淳和帝在
御宇よりカモマリ云浦彦は因名吳人ナムと
心ナリ

新 藤原千方ノ後

俗説云天智天皇代御宇に在る千方トウホ老寂達ニ

被千方百金鬼風鬼水鬼隱伏鬼とりよ四鬼紙刀又平方
被兮と復ヘテ仰其体勢と押領ともよ紀胡雄と云
との宣旨代かくゆつ被兮よテア一首アキトマメて鬼
乃中ふたうる奈房ミテニニヨリも本モわら大ミモ
代ゆされハジク鬼のすとつたり未四鬼けうキモ
足て秋毫無遙空道アリにもアシヒテ毛政有道ハ若
まれハ千方ニキハドモトカヒテ朝雄よことあひ
今接又よけ後舊事紀古事記日本紀及諸實記
小刀ノ次第より後名姓ハ大變冠済足云うる姓多姓

錄よ天智八年に始て太歲冠簿是賜良家姓タガフとあらず
余系圖タガフよかすまう者タガフにて至る者タガフ也
云くは後タガフ古今の序タガフよ和歌と論タガフしてうちく代タガフも道
として天地タガフをうめり一月タガフより思タガフくぬれようみをもあ
れとらむとわゆよもかほひま従タガフうてかき來紙
書タガフてくと勿タガフ一後タガフ年方ハ儀長タガフを考タガフみよと
新都良秀タガフ仙タガフとタガフか附羅生タガフ鬼タガフ也
信後タガフ云都良秀タガフハ京洛タガフ代タガフからまタガフせよはす花タガフ近タガフく
著化タガフ帝タガフとタガフか夏巫タガフ相タガフハ良秀タガフノ門タガフ人タガフたう跡タガフよの志
乃階爵タガフ以タガフに進文良秀タガフ及タガフ所放タガフの残憲タガフと官タガフと捨タガフ

山入仙御タガフとタガフ事タガフ總承タガフ不タガフともすとタガフ云タガフ一後タガフよらく考タガフ
子財羅生タガフとタガフ詩タガフと得タガフまり氣霽タガフ風梳タガフ
新柳タガフ鬢タガフとタガフ吟タガフしてタガフまタガフ射タガフ久タガフ不タガフとタガフよ門タガフに
聲タガフうて水消波洗タガフ舊苔鬚タガフとタガフとタガフ毛タガフ思タガフれほくあ
可タガフりタガフ。

今接タガフよ良秀官タガフとタガフ山入仙御タガフ不タガフともすとタガフ云タガフ
了タガフ承タガフなり三代實承タガフもと考タガフある都良秀タガフ始タガフ名崇
神帝タガフ高タガフ桑タガフ名腹赤タガフ之タガフ子也仕タガフ至タガフ文章博士少タガフ內記
元慶三年二月廿五日タガフ西卒タガフとタガフ思タガフくまう又仙
術タガフと學タガフ無事正史實錄タガフよ賣タガフてすタガフ組タガフ一良秀タガフ

神仙乘小三壺雲浮七萬里之程分浪五城霞峙
十二樓之構插天四九三十六之天丹霞之洞高
闕八九七十二之室青巖之石削成見千本朝文粹
當時人穴之脇旁一處豪放稱君子之風氣
好事者仙術之掌人所傳又羅生門也事
鬼比詩非有之有也人名流也又落實王之見君
門之上よかれば其へ伏づまをひくをあすと
之ア唐才子傳小宋之間鎌塘より出で靈隱寺より
之の東川より長廊うへにゆき今して山中鷲嶺
岩鬼龍宮隱寂莫といはまこと下聯絃はりてを傳也

樓觀滄海月門對浙江潮也近よすり連ゆる
彷彿よ身は汝老傍も駱賓王からも海よ浮て去と
えまうと記そり羅生門みて良秀う詩とほきうも
けじといひ隠去あくへ
二 依袁左秀卿之上山有隱松と射所號曰同人洞門
と刻銘

信後云因藤生藤尔秀卿に別號曰と通多うに方地
より上に橋つよよ橋つよ外をう秀卿がいねをよひられ
外ぬんで通す大蛇忽男とねう秋之是代游水よも
都詣ナウ御名より常圓三と山の號也來て秋

黨類とをやうべとくつゝかきう給へりてぬをれ
かア紀成か橋上よ外て往来せんがち見事よ門
きよ海弓反取し神もくは彼婦娘と付て後ふ
ひくハ秀卿らもひ縁して彼男とどうもあひら中よ
入とそと暫時めで難多よいまくお案代とくの事
らす而足ノ傍をうそそ周章さむく秀卿朝さう事
毛毛矢代をねちて射うちと斬罪候よまくと十種の
財代秀少よわする三門儀一門籠一門矢拂と後事よ
至て身代一坐て圍爐ちよ寄進と儀ハ朱とこれも
文よほきこどりあれハソウカすとて三教富つけ祭

家號とて儀表ちと稱と承平五年平元將門下總國
相馬歎よ左て反連一すあよ帝教とがぬえんゆく次
二行よのく秀つ室首代かゆり發向一攻くくと
火とと彼將門強勇絶倫其膚薄よむくく矢石を
及程向刃す加多と取一殊の深きくみゆて云多
きれハ然よとに御方利伏一いたひと防敵秀マ筋で
降參一ひと小將門を委よ通し將門其軀薄よく
一坐ひよまよ婢若れと常人よまかくもうととくひ
ゆて終よぬ門と射殺一首筋切く至ると退くに骨
秀と逃て走る由よ半分首とひ落すとせん氣き良

古
お姿で汝目紙瞑^{スカイ}と我^{カタ}とからぬる魚^{トモ}はまくわく
せくか意^{シテ}逐^{ハシマ}と呼^フとけぬよ爰^{ハナ}左近^{ハナミ}とリ者
海門^{シマノ}とこえ^{スル}もりを射^{スル}とまゆ儀^{タマヤ}衣^{タマシ}もく縫^{ハシマ}てと
もきれ^ハ彼首^{カタ}呵^{ハシマ}と笑^{ハシマ}と仰^{ハシマ}眼^{ハシマ}さら肉^{ハシマ}れて
蟹^{カニ}よ枯骨^{コツ}と取^{ハシマ}て來^{ハシマ}ば妖^{ヤク}怪^{ヤク}よ殺^{ハシマ}す体^{タガ}の體^{タガ}を埋^{ハシマ}
や致^{ハシマ}うよ社^{カミ}代^{カミ}建^{ハシマ}體^{タガ}明神^{カミ}一^{ハシマ}神^{カミ}乎^{ハシマ}勝^{カミ}明神^{カミ}と云^{ハシマ}也號^{ハシマ}
けぬと傳^{ハシマ}わく事^{ハシマ}從^{ハシマ}て神^{カミ}田^{タガ}神^{カミ}と称^{ハシマ}と云^{ハシマ}傳^{ハシマ}
秀卿^{ヒササギ}と志^{ハシマ}と次^{ハシマ}

今揚^{ハシマ}かよ淮南子註^{スカイ}云^{ハシマ}螂^{カニ}蟲^{カニ}蠍^{カニ}也^{ハシマ}性^{ハシマ}能^{ハシマ}制^{ハシマ}蛇^{カニ}見^{ハシマ}
大蛇^{カニ}便^{ハシマ}縁^{ハシマ}上^{ハシマ}歌^{ハシマ}其脚^{ハシマ}王廻記^{スカイ}云^{ハシマ}蠍^{カニ}制^{ハシマ}大蛇^{カニ}也^{ハシマ}

蠍^{カニ}蚣^{カニ}乃^{ハシマ}蛇^{カニ}と臍^{ハシマ}とほ足^{ハシマ}と足^{ハシマ}細^{ハシマ}毛^{ハシマ}也^{ハシマ}神^{カミ}田^{タガ}也^{ハシマ}
大蛇^{カニ}の足^{ハシマ}と手^{ハシマ}と互^{ハシマ}に相^{ハシマ}と小依^{ハシマ}居^{ハシマ}て往来^{ハシマ}の人^{ハシマ}とあ
どううちよもうちう狹^{ハシマ}とひそひそひそひそひそひそひそひそひそひそひそひそひそひそひそひそひそひそ
怖^{ハシマ}を考^{ハシマ}とむからぬ^{ハシマ}と振^{ハシマ}其軀^{ハシマ}よきずり争^{ハシマ}百脚^{ハシマ}
よなよまみれ^{ハシマ}しと事^{ハシマ}考^{ハシマ}もぬ^{ハシマ}とたう^{ハシマ}又秀
卿^{カタ}彼^{カタ}大蛇^{カニ}と立^{ハシマ}も中^{ハシマ}よ入^{ハシマ}まよひる草^{ハシマ}を宴^{ハシマ}
なり草^{ハシマ}もあ度^{ハシマ}よ乾^{ハシマ}とつ世界^{カニ}やんや若^{ハシマ}乾^{ハシマ}御^{ハシマ}
秘^{ハシマ}御^{ハシマ}と取^{ハシマ}て候^{ハシマ}世界^{カニ}とわく^{ハシマ}とて凡^{ハシマ}そく^{ハシマ}とて
目^{ハシマ}伏^{ハシマ}く身^{ハシマ}と化^{ハシマ}もれ^{ハシマ}有^{ハシマ}とくにまことう^{ハシマ}ま
生^{ハシマ}かく天^{ハシマ}妖^{ハシマ}也^{ハシマ}あらう^{ハシマ}と^{ハシマ}蠍^{カニ}と射^{ハシマ}る^{ハシマ}

鷹派——幕かまくら——が代晋の周處の南山の大虎
長橋ちく較と教へて後輩を讀て忠孝乃士と名を
一とハ同月かと從之と云ふか秀之ク有る者多く
又依ヒトナマシカ故よ依義と号す也ハ源左衛門秀
卿系圖より近に國俵庄奴故號俵義と記す
又ね門う猿夷よ依て秀之宣旨とかく妙下總よ
登向タカアリと云ふも利をよく故門をうそてお門あ
まきひかまく委よ通ツウ——將門と射う御ヒテナト
琳ナリ將門記盛衰記考と考教ヨウカウ秀之宣旨とか
ゆりてよかよハわく次ね門う反対小まき被ウ御ヒテナト
主キミト

猶々くの同意にて羽柴が伏け奉候とて乃
むうひをばよ將門^{ハサウド}為禮輕忽^{ハシタテイ}とて天下休嘆^{ヒヤウタツ}極矣
夫器^{カミモノ}よやくは空とぞひがみむかへか圓下^{ハシタ}時よ汝
又采貞^{タチヨリ}盛^{モリ}トニ志矣^{ハシタ}わもを拂^{ハシタ}ハ催^{モヨラ}して將門^{ハサウド}
也^{ハシタ}矢盛^{ハシタ}をか川^{ヤマ}築^{ハシタ}り將門^{ハサウド}よやくすとへらもり廢^{ハシタ}
次秀^{ヒヂナト}以基^{ハシタ}育^{ハシタ}と捕^{ハシタ}ト^{ハシタ}アフ^{ハシタ}補^{ハシタ}又秀卿^{ハシタ}將門^{ハサウド}妻^{ハシタ}ふ通^{ハシタ}
おと冰^{ハシタ}と組^{ハシタ}今昔^{ハシタ}物語云將門^{ハサウド}貞盛^{ハシタ}と^{ハシタ}キムカ
よ貞盛^{ハシタ}軍^{ハシタ}敗^{ハシタ}もて矢盛^{ハシタ}妻^{ハシタ}と生捕^{ハシタ}軍士^{ハシタ}これよ
通^{ハシタ}きうとわく此^{ハシタ}外^{ハシタ}内^{ハシタ}衣^{コロモ}と矢盛^{ハシタ}妻^{ハシタ}よわくあ附
歎^{ハシタ}とそぞれよも風^{ハシタ}をぬけりに秋^{ハシタ}とそよぐを

今迄下ろ候方角をうかと後悔奥復折よりまう
公死をあやむれども。又秀マウル門と付へて成
忠義と称されと色と先の門よりまんと成宗
其器よわくうれびにて公死をぬくととて公死ハニ
公死トウラの處を公死と太郎と称すぬよまう
ひや又ね門を齋戒よりまく其役アシテヤマリハモ後秀
御と迄て武秀よりまく其役アシテヤマリハモ後秀
女房戯院論と序よまく又神田明神ハ將門と祀る
小原氏社家傳後よ天平二年大己貴會成門也
室アシテ公死ハ公死のりやまく公死ト
此段加補

三 藤原忠文將門追討ノ賞を以て恨て惡靈也ナニ
統

信統云承平年中平將門謀叛アシテ付キモト
大内軍平負盛副將軍民部卿義宗忠文以下東國
發向どうかよ將門とてようもれり、ス邊列より名城
治といとも忠賞おとあるルよ唐文もりもれり
残九條師浦たゞくも同々賞叛おとあるれもろく
少くもれもともおせよ実物因公をもてよりてもの
沙汰アシテハおえおつり物然がゆく羽敵成門
二人と賞よわくうり一人ハ忠義もかきもとからくゆせ

あ後乃後よりれどとまく歎てるがとく擱て春
秋めきふすよな右の木代八川乃孔カタコト田に通つて血流
也おそれり宿シヨク不にかう飲食イニシヨク死シテようせて死
矣シテと左もと云

今據ササギる將門サムライは討ハサウて貞盛サモジタツバシ忠文タツム登アガフと又
既アリ大アリあアリすアリ將門記古事記今首物語ヒメモノガタリと考
に將門其叔父ツチヂイチイチイチ國香クニカと害キヤ一ヒコを罪サザニのアヘン次
とそ亂アハラ成ルたルとげらを國香クニカを貞盛サモジタツバシ處シタツキ陸シタツキよをシタツキ
ケ初ヨウ卒サトとかアハラすアハラとアハラ親チヒロ離ハグすハグゆハグ
秀ヒデシとヒデシ後アヒタて將門サムライとせじけ半ミタツキ活ハラハラよハラハラえまれハ

討ハサウる大將軍サムライ義家忠文副サブ將軍サムライ刑部卿キブクニ卿キブニ忠舒チブシ教ササギ佐
源經基ヨシモト孫スモト弘ヒロ也ハシマ下向シモカタすスルよ將門サムライとてに伏深ハシモトれ
小コトハ高コトハ上深コトハすスル是モトハ見ミくまうる着キル忠文タツム貞盛サモジタツバシと同シテよ
發ハラハラ向ハラハラ貞盛サモジタツバシとシテ下シモ總シモよ下シモして何ナニ也ハシマて
主シテ身ヒメハ落ハシモト河カワよスルもんや又忠文タツム賞シテたスル強カタマリて
死ハシモトもと云ハシモト事ハシモト班ハシモトなり王代カタマリ一覽ハシモトよ天アヒタ齊セイ六年六月參
讓ハシモト義家ヨシモト忠文タツムと歲シテ七十五中納言シテと賜ハシモトるやも
わハシモトね門ハシモト追ハシモトる天慶アヒタ三年より忠文タツム去ハシモト天慶アヒタ六年
六年ハシモトも其際ハシモトよ十三年に及ハシモトて是ハシモトもと云ハシモトり也ハシモト
信ハシモトる相ハシモト達ハシモト然ハシモトかハシモト但ハシモト一ヒコ似ハシモト防ハシモト來ハシモトわハシモト莫ハシモト尔

久
為長の十訓抄より齊信為先る
中北才幹とて先手よからず見え此誠信力の爲め近延
て中納言にうちを経りよ誠信わざめ不遇とて次
モアリ也まう恨み譲と七日と以て恨死して死
終り生れゆきあらばひきぬくゆくゆくゆくゆく
あり生みあえ生あくとハ帝王臣下とぞ一めども
其生みあくがりくひかはるやくもあづきふとぞ
御ともあづきふと強竹とくわくとぞ

新平維慶戸隠山の鬼城斬流世よりよきもん

後後云平、维庵信州隱山よ入
きてあづま野へ、強切うわせと云傳え信州に
アモ紅葉村モニキカリ。

今抄矣。非邪？但——今昔物語よ維新澤侯
諸侯と之者モロコシ、維新河貢て其傍ツバハと云安那
狹翁キヤウ、諸侯と称スル。ひど氣象士爲カニ、慕カニつゝ終スル。敗
卒マサニの免タクて諸侯と冠スル。トとて、毒
殺せ致スル又山中ヨハ本客ホツカク、彰侯ハラコウ、山襟サンジン、山都サンブ、山鬼サンキ野ヤハ、
狹ヒヤク、黒シタ皆モとく之ヲ物モノあり。之ヲかゝれ、吳ウ歎タクとうち
あらせまふ事モノもわざスル。と終スル。先儒セイニイの注メモ

考へ見るよ世人道なりきやうとれど其の所わ
らにあらへずすれどもにうぬぬまゆく
足取物候ハ極く思へり日月星辰雷風雨雹火水
希よ見ハちや一もへまへとも常よりんうねよえお
ほとせはあくし理よ醉と不醉とわくもえんを
寒一蓑禊一もさうえ秋かゑハ理考へたりが
ば程よみぬふ事わざは不醉なり庭前代樹木船と
の風流はて花をまきくハ理の正たり冬月あい
まつて坐ぬく一舟の花残ひくハ理の不正たり
佐よそす雷霆風雨ハ造化なり従福かなる紙よあや

生歎忽鬼魅うきけふ來かとわきハ希よきくがす
大よあや（め）う是理のまくちあにうちく神とひ
ゆく（め）う造化の迹たり事の物の理とわきくあ
はしきて懲とめく風きのう一は故よ丈室丈
懲戒（め）う教とめく風きのう一は故よ丈室丈
よわく（め）う懲りがくめくあされへりとぞうりき
とくとくとくとく

四信大一小節

信統よ天慶年中に奥州信を玉造ニ移り領主信を小
大寺とす者わう相馬の門の孫たり初て又よれども

末名友其母小左衛禰禪乃弓削の小山を弟小糸房
御前^{ヨリ}に小山をもととして領地とするも小左衛
母代追出と小左衛^{ハシタ}は延暦十四年^{カツハジメ}母^{モト}
を八^{ハチ}ノ列^{ハバ}番場^{ハバ}宿^{スル}と題^{タマ}に母あると小病^{アリ}て死^ル
ましハ小左衛^{ハシタ}又園^{カツハシタ}と後^{アリ}傳^{タマ}有^リ者^{ハシタ}と云
龜城^{カツハシタ}一^{ハシタ}とくとくあきらひまれる色^{アリ}信^{ヒサシ}
生捕^{アリ}もとて小山を象^{ハシタ}人^{ハシタ}をまゝ縛^{アリ}よ有^リきれりと信^{ヒサシ}
姫^{ヒサシ}又^{ハシタ}月代^{カツハシタ}のひをふう宿^{スル}よあらと系^{ハシタ}園^{カツハシタ}と小左衛^{ハシタ}より
まし其後小山を象^{ハシタ}人^{ハシタ}を食^{スル}て信^{ヒサシ}代^{カツハシタ}海^{カツハシタ}よ沈^ムり^{カツハシタ}人^{ハシタ}死^ル
子弟情^{ハシタ}あつて^{ハシタ}信^{ヒサシ}す^{ハシタ}信^{ヒサシ}其^{ハシタ}而^{ハシタ}と落^ムき^{カツハシタ}と運^ム

然^{ハシタ}あ小山を付^クて本領安堵^{アリ}と信^{ヒサシ}姫^{ヒサシ}尼^{ハシタ}と方^{ハシタ}て
小左衛^{ハシタ}と尋^{ハシタ}宿^{ハシタ}圃^{カツハシタ}と先^{ハシタ}と^{ハシタ}と云^{ハシタ}傳^{タマ}え其^{ハシタ}遠^{カツハシタ}不^{ハシタ}
ふうと^{ハシタ}

今^{ハシタ}君^{ハシタ}よ今^{ハシタ}昔^{ハシタ}物^{ハシタ}居^ク羽門^{ハシタ}く^{ハシタ}良^{ハシタ}其^{ハシタ}子^{ハシタ}紀念^{ハシタ}也
や^{ハシタ}大系園^{カツハシタ}發公集^{ハシタ}入^{ハシタ}將^{ハシタ}門^{ハシタ}女^{ハシタ}子^{ハシタ}如^{ハシタ}兔尾^{ハシタ}く^{ハシタ}幸^{ハシタ}也^{カツハシタ}
小左衛^{ハシタ}ニ車^{ハシタ}八^{ハシタ}見^クて^{ハシタ}來^{ハシタ}して^{ハシタ}信^{ヒサシ}太^{ハシタ}氏^{ハシタ}幸^{ハシタ}書^{ハシタ}小^{ハシタ}裁^{ハシタ}
は希^{ハシタ}か^{ハシタ}續^{ハシタ}日本紀^{カツハシタ}云^{ハシタ}常^{ハシタ}陸^{ハシタ}國^{ハシタ}信^{ヒサシ}太^{ハシタ}郡^{ハシタ}人物^{ハシタ}部^{ハシタ}
依^{ハシタ}改^{ハシタ}賜^{ハシタ}信^{ヒサシ}太^{ハシタ}姓^{ハシタ}又^{ハシタ}云^{ハシタ}同^{ハシタ}國^{ハシタ}同^{ハシタ}郡^{ハシタ}本^{ハシタ}領^{ハシタ}物^{ハシタ}部^{ハシタ}志^{ハシタ}太^{ハシタ}連^{ハシタ}
太^{ハシタ}成^{ハシタ}姓^{ハシタ}氏^{ハシタ}錄^{ハシタ}云^{ハシタ}信^{ヒサシ}太^{ハシタ}首^{ハシタ}百濟^{ハシタ}國^{ハシタ}人^{ハシタ}百年^{ハシタ}之後^{ハシタ}也^{ハシタ}徒^{ハシタ}
然^{ハシタ}まに丹波^{ハシタ}よ出^{ハシタ}か^{ハシタ}と^{ハシタ}、不^{ハシタ}信^{ヒサシ}太^{ハシタ}と^{ハシタ}と^{ハシタ}や知^{ハシタ}不^{ハシタ}

也ハトカノ又六壬判吉乃義ニ男原ノ秋弘常陸國信太郡ニ住ミ
御事トニ信太小左衛と云者ハ一信冬草子代因ヨ
渡海ニ至ア鉢場ヨモホテ名ニキモ玄く捺波丸秋光に
ム代ノ孫三四郎义女トカイ天慶代ムクハ六孫王經
基ノ時少して於光ニ生モモ理んやみ代大豫
ヤ其偽氣ハ一般くハ豫會管領持氏アス青王丸
安王丸不くニ附處一結城氏朝ト移シ落城ト成
け西ノ結城村也て後合生捕モ殊ドレモ乳母狂
氣トテ而シニシテハシ半結城鉢場代ヨウヨウ
後安王丸アサ永秀ヨシタシハ官領モ補一成氏ノ号

也父兄乃仇ナリトテ亨德三年十二月廿七日上移
憲忠ト殊ニ一車錄倉九代記族宿同卷第ニ見
えテナリ是考ルトムカわニ房跡ノ子北東、故後
アモモナシカニヤ諸國ニ信太り姪ノ車後もアハ
右在佐波東那と伏少て後世好車乃本家也
立源賴光酒顛童子伏討後付土蜘蛛ノ號
俗統云酒顛童子也リ鬼丹波乃國大江山よりて岡
土ノ稱トシテ子故接津也源於光モ勅してうすり
度越於光保昌綱公時定光尼李武山也よ出立て
大江山より入酒城を以て幸ニ之の事一じも

醉ミみに及んシテ三社の神童カミみを是故アリからめれ光小岩
猪シマと秋各童子コトコト代切カタハラー其うもシテ不元婦ハルモ等相
具ツブ一上廣ヒロシマ又アリわカニと社去ハシム懈珠ハシマツとシテれ光と
あやまちアヤマチにれ光太刀タケとねシテてシテれ残リきアリ事アリれ
手ハとシテゆけシテねシテれは保リよシテれ
ク血クモリをシテ絞シテるシテ去ハシム懈珠ハシマツとシテれ

今按アリすシテ頬光カクガウ頭童カミコトとシテ討ハシム事アリ實ヒツ孫スジと
但源氏系圖ヒツジイシヅクとシテ頬光カクガウ誅ハシム行ハシム山凶賦カムシノシテとシテ古今著聞
集アリすシテ牛比ウビ後ハシムかシテれ居ハシムちシテ魯ル同シテく
云者アリ頬光カクガウ切教カツガウせシテ來ハシム伐ハシム裁ハシムそシテり是アリ萬國附ハシム

一シテ世アリは傳ハシムアリシテ又異邦カナダよ似シマツすシテ事アリ一シテ梁リヤウ
武帝ムテイ大同二年ダントウニイ歐陽オウヨウ純スミとシテ者シテ山中サンノウと通ハシム了附リヤウ
其書殘卷カクシキエンとシテ純スミもゆくシテ殘卷カクシキの嶺リョウ經キヨウ
溪カニ流ハシムしてゆくシテ是アリとシテけ過ハシム後ハシムとシテてシテは山サンよシテ
了シテ和ハシム連リヤウ兵ヒン三十人サンジンとシテまよシテとシテぬくシテりを入ハシム小南
小南シテ山サンとシテ草カサとシテ山サンとシテ綠リョウ樹枝ツリ代ハシムれ涸カキ流ハシム
やくれ純スミ漸ハシムく葛カモとシテ傳ハシムいシテあシテどシテてシテ此アリは
もよして石門シモドウわシテはシテ女シテ教ハシム十人ジンわシテひ承ハシムあつ
純スミとシテ見シテれシテおシテとシテ何シテ放ハシムよシテ耳アリとシテ向ハシム統ハシムてシテれ
もシテ來ハシムてシテがシテ彼カナダ女シテ等アリがシテくシテ好シテ人ヒトハ福ハシムふシテて

席シテまわらマサルて続スコトまシテ門モ入ス本ホン代タメ而ヒテ扉ドと
も其中廣ヒロ一席シテあうよ綿ミツシ毛モウリシ紙シ紙シハ石
乃揭タケの上アベよ姫ヒメさうり諸女ソウルをもくわきカニ色シキ若カニ
書シあゆアユひヒく鬼カニ神ジンよシテおよわうカニとえ
今鬼カニ神ジンとてヒテ行ム化カニ日ヒ若カニ酒シ二解シ大
十丸麻マツヤ數カウ十トシ待マサニハ秋アキ等タタミと相シマスて
鬼カニ神ジンとシテ一ヒナ代タマ鬼カニ神ジンにシテ好シんシテ饗シテ
らシテ酒シ然シテ醉シテとシテハれシテとシテ力アリとシテまシテ人ヒトとシテ
み色シキ比練ヒシラとシテ手足テアシと度シテよゆシテけシテしよひ
おとシテ六ロク練シラかシテ酒シ坐シテ御シテとシテ比練ヒシラ中シテ

繩シテと繩シテと結シテ入ス底シテは四シテとシテも乃シテ有シる
但シテ一ヒナ膚ヒダかシテして候シテ乃シテとシテ刃アガマもくシテとシテかシテ
臍ヒダ乃シテ下シテ肉ヒダ身ヒダたり奉シテには不シテとシテれやシテく汝ヒテれ
汝ヒテれ巴ヒテ元ヒテノシテ一ヒナ側ヒダ乃シテ窟ヒダハシテれシテ食シテ物シテ伏シテすシテか
所シテたりあシテかシテ二层シテ相シテ手シテ金シテとシテ手シテ絶シテ其シテ
肯シテにまう落シテ家シテよシテ酒シとシテかシテ金シテとシテてシテ併シテろ
不シテよシテきシテ酒シ伏シテ木シテ代シテ下シテに至シテ本シテ伏シテ林シテ中シテよシテかシテ寢シテ
加シテも相シテ手シテよ申シテの刻シテちシテりに及シテひシテ鬼カニ走シテる
続シテ等シテえシテとシテかシテ姫ヒメよ長シテ六シテ尺シテ計シテてシテ勢シテわシテ勇シテかシテ
被シテとシテわシテ代シテ如シテ伏シテ引シテ出シテあシテ伏シテきシテせ

トムハ酒代りじと六七斗マ五升ハ磚急並ハ諸女子
トシテ御て洞よりトムカヒ巻ニ色紅ヨキトセ
アリテ婦人出で紳士ナ称く紳士下ノ兵廻入
多見於大ナホ白猿四足伏麻ヨツアシル人を
見テ禪戒ヲトミシテ色カホシイコモ眼電
乃如ト紳士下ノ兵鬼^ホ脣代トモテアモソシ
數一カモシタクナニ所ノ財トアリ光刃五小世
小希少無モ内モ一ノミヒ至る女三十人皆女
多アシ若キ女モ多モアホト十年以上ハ寝未
サシ才トテアシハシモア残ラシテ彼鬼因^{ヘシ}ト
ヒ

他山よどひゆくと教百里聴^リ及高^{タカ}海^{シマ}あとなん
紳其妻及諸女と相具^{トシタク}一財物^{モノ}を半房^{ハーフ}ノ
女^メもとつと説郭^{セイツ}白猿傳^{ハヤシタ}ノ記^{メモ}トテ^トテ^ト酒顛童
子^スア狂^{カウ}ト^{カウ}半^{ハーフ}ノ攝^ト化^{ハシメ}ト^{カム}モのたうノ^ト又云^モ蝶^モ
蝶^モ來^{カム}ハ日^ハ本^ハ紀^ト考^{カム}ト^{カム}蟲類^{ムシ}ヨハカラ^ト上古^{ヒト}貪
乏^{シム}無聊^{カウ}ノ者^モ家^ハ成^{カム}ハ^{カム}ト^{カム}モ^トす巢^スニ居^{サハ}穴^モ
翁^{シムヨリ}ノ^トモ釋^{カム}日本紀引^{ヒツキ}攝津國風土記^{トキ}曰^ト宇^ウ禰^ミ
備能可志^{ハラノ}良能御宇^{ミタケミタケ}神武天皇世偽者^{ミタケミタケ}土^{ミタケ}蠶^{ミタケ}註^{ミタケ}
云此^{コト}人恒居穴中故賜號^{ミタケミタケ}曰^ト土^{ミタケ}蠶^{ミタケ}ト^{カム}今^モ
者^ト跡^ト六^{シク}從^トり出^{カム}事^ト文^モ育^{カム}者^ト家^{ミタケ}義^{ミタケ}の
事^ト洋^モ半^{ハーフ}伊^{ミタケ}後^ト出^{カム}事^ト

てはるか蟲類也。妖妄之流とはくとれ先條
武勇威稱さんゆえ還て良ねと縁縁と第の爲め
ゑぎま（義行）

補 賴光家臣四天王一人武者也

俗経云源於光乃家臣四天王一人武者也。四天王
渡支綱坂田云時_{イ稚水}井貞道_{一定}浦_{一上都}李武_{ヒトク}一人武

者ハ平井保昌なり

今按_{アリ}坂田彦井浦多代号_{ガタモラサ}玄_{カミ}也_{アリ}四代_{ヨリ}ノ播
左一今昔物語_{アリ}村是_{シマ}平_{ヒラ}貞_{ツバメ}也_{アリ}年季義
中_{シマニテ}家号取_ル云時_{アリ}姓氏ハ知_ルて_{アリ}次_{アリ}保昌ハ

益爾姓方_{アリ}も_{アリ}今_{アリ}色家號志_{アリ}次_{アリ}一經_{アリ}よ採列
平井乃_{アリ}義小_{アリ}家号少_{アリ}次_{アリ}とわ_{アリ}と色怪_{アリ}也_{アリ}
保昌系圖_{アリ}族是_{アリ}多_{アリ}因滿仲室河内守賴信
母ハ保昌妹_{アリ}と譽_{アリ}とされハ賴光賴信也_{アリ}と贊_{アリ}
也_{アリ}ハ左毛有角_{アリ}御毛_{アリ}と色保昌ハ大納言
賴忠乃子_{アリ}母ハ元明親王比女_{アリ}守_{アリ}揚津_{アリ}赤司
少_{アリ}号_{アリ}後_{アリ}再後_{アリ}とあらじ正四位下_{アリ}光
光乃家臣_{アリ}と有り人_{アリ}人_{アリ}少_{アリ}次_{アリ}
補 渡支綱相馬良明_{アリ}附_{アリ}綱詠歌_{アリ}之

源賴光征伐よりて東國下向し良門とあくひふ
渡き、懲良門と組て其首を取りて又わざと北邊
よりかうすふを伏見殿をせん人やほひくまのま
足げうそと何とぞアシ

今接あよ今昔物語よ平將門^{ヨシマサ}良門^{ヨシマサ}金泥大
般若經一部^{ハナダツキ}と奉安^{ヒョウ}して供養^{ヨウヨウ}と良門^{ヨシマサ}僧^{ヨシマサ}
庵^{ヤシマサ}と懲念^{ヨシマサ}と寺^{カサ}と陸奥^{リカク}小松寺^{ヨシマサ}より住^{ヨシマサ}て常
小地主^{チヂマサ}と信^{ヒツキ}とゆきの門^ムと門^ムと保連^{ホリ}佐^{シマサ}の
車^{シマサ}諸^{シマサ}實^{シマサ}源^{ヨシマサ}よわれてかー其妻^{ヨシマサ}誕湯^{ヨシマサ}と仰^{ヨシマサ}よく汝
又懲うな化名^{ヨシマサ}とあるとゆき水^{ヨシマサ}より後撰集^{ヨシマサ}よるわ

弟女^{ヨシマサ}よおひてかひあ瀬残^{ヨシマサ}ちとともをす^{ヨシマサ}は
人^{ヨシマサ}よもれ^{ヨシマサ}一^{ヨシマサ}もつひ仰^{ヨシマサ}きれ^{ヨシマサ}ハ^{ヨシマサ}と人^{ヨシマサ}とお^{ヨシマサ}
名^{ヨシマサ}とゆく^{ヨシマサ}よほんじくわくぬ^{ヨシマサ}一^{ヨシマサ}公^{ヨシマサ}おとく^{ヨシマサ}りく^{ヨシマサ}
魚^{ヨシマサ}とあく^{ヨシマサ}あく^{ヨシマサ}も真秋^{ヨシマサ}なり後經^{ヨシマサ}北相^{ヨシマサ}遠^{ヨシマサ}残^{ヨシマサ}
廻^{ヨシマサ}

新渡^{ヨシマサ}遙^{ヨシマサ}宿^{ヨシマサ}治^{ヨシマサ}橋^{ヨシマサ}姫^{ヨシマサ}宇^{ヨシマサ}森^{ヨシマサ}羅^{ヨシマサ}生^{ヨシマサ}門^{ヨシマサ}ノ^{ヨシマサ}鬼^{ヨシマサ}斬^{ヨシマサ}経^{ヨシマサ}
俗^{ヨシマサ}流^{ヨシマサ}云^{ヨシマサ}後^{ヨシマサ}象^{ヨシマサ}帝^{ヨシマサ}の御^{ヨシマサ}宇^{ヨシマサ}にわふ^{ヨシマサ}公^{ヨシマサ}卿^{ヨシマサ}比^{ヨシマサ}女子^{ヨシマサ}嫁^{ヨシマサ}姫^{ヨシマサ}の
餘^{ヨシマサ}夫^{ヨシマサ}松^{ヨシマサ}の付^{ヨシマサ}よまく^{ヨシマサ}と鬼^{ヨシマサ}よか^{ヨシマサ}て後^{ヨシマサ}と引^{ヨシマサ}と引^{ヨシマサ}と
差^{ヨシマサ}よも^{ヨシマサ}あく^{ヨシマサ}後^{ヨシマサ}河^{ヨシマサ}原^{ヨシマサ}よも^{ヨシマサ}か^{ヨシマサ}よ鬼^{ヨシマサ}とおも^{ヨシマサ}
宇^{ヨシマサ}治^{ヨシマサ}橋^{ヨシマサ}姫^{ヨシマサ}とおき^{ヨシマサ}から後^{ヨシマサ}よ深^{ヨシマサ}穎^{ヨシマサ}光^{ヨシマサ}家^{ヨシマサ}士^{ヨシマサ}渡^{ヨシマサ}と綱^{ヨシマサ}

二二 矢田一系及橘よりゆきかわの鬱切代操て鬼うみ
切てぬる一櫛より生きて七日うちこ門内と来て居
まくろに緋ク吉母操津圓渡邊もく来て緋小
わい鬼うみ代鬼じとれゆみうとひかてみけ
とあ毛うりて櫛切と鬼とあくもむ代歎ひま
田端仲義亦北圓三笠取山の船宿よりくわく
まとふ。一說よハ總庭坐つゆて鬼代を破切して
鬼緋の母よとけて方以をやせりよ。一說よハ大和國
宇多森よ鬼わうて從來の人を害と源頼光渡
き緒。は鬼代討てあれども童代刀左刀と云う

されハ彼不よ遙くに森の中うち緋ク櫛ばんと
掻け候代刀代ねひて鬼代を代うち櫛一櫛え
見せけよハ頼光櫛よたまら七日うちこ門内と立
あこづき指しれをゆよ河内圓三の姿の里うち采
先代母妹アミカの鬼をみて代ゆ見うとひか
鬼とたひてふすんとすぬ代頼光刀と鬼切とねみて鬼
取と初代と次代とするには左刀と鬼切と右刀と鬼
左刀多田端仲刀をよ渡て鬼とまかと右刀と
角弓四合金足那太奈又帝太支安徳う作ふて附の
武將田村將軍よ奉とつと是ハ越後麻浦恭田村の事と

經原山也。鍔合之刀也。

今按布ノ公卿ノ女姫妒比情アシテ貴布祢
ノ社ニナリト思ふかして主人と祈ニル所
ナリトヒヨリて鬼と云ふ事非ナリ貴布
禰社ハ名寵トナリモナリ神代卷云乍弊諾尊勲
軒遇突智為三段一段為高寵日本後紀云弘仁
九年五月以貴布祢為大社賀茂氏記云爲平安
守護所祭也蓋日域地主神明也加久美神父
姫惡の姫婦レムテ世ノソリヒシ取ニタク
ヤ又宇治榜姬ハ魔魅トナリ次頭注密幽河
海松說又同行者大

少神妃始太神在宇治榜西因号榜姬又号宇治
玉姬神社考雍列
府志名勝志委古今集ニモレウヨ良加ニキ
アスヘナリヤリモ不戎主川野人トナリ榜姬又ハ宇治
ノ川面を免也レウ同抄ニけ字ハ行者太神代術
ナシト記ナリニラモ伏也而て俗流ウカヤキリ代也
ミホニアツ波ナリモキ財めがトウ楊が先のト代ニキ
カクシトウモルカトガラススカチ御乃リモカトウカト
旅ト古著宇集袋多ニ考小和泉式部男代ニキ
アレナリ成教主考布祢ニナリト祈アシテハ忽よ
感ニアシテト伏載ナリ或教象集又益厚和尚紀
而濃國ノ婦已ウ支他代女伏モせんを憤ツモ豊城

み川よわゑ館故ねつとてかくも角のやうに 紅代禪と
看て鬼とぞり同圓の野中ふわむ堂内よ往て初
走子る牛た死一うち伏ぐる墓石の者とも望
殊うとんとて堂外からみた伏つみて焼よ天井よ
モカの鬼出ていもく我ハは圓何事姫たり 嫉妬
にト向あ鬼ゆくめうて支方ひよせゑ女伏う
教一は堂よす先づ祐うちハがく終ク化供喪
ト落成そすひてまくゆて火よ花入て死をゆ
あり由ニ奉とそりわきせて妾化さしめや又羅馬
の鬼う事ハ右乃信程ノ小異と役うち王氏たり辭

正房よあく汝又宇治橘姫羅生門の鬼洞よ多城
キテれて怨う母よとけ宇多森比鬼怨よ多城
まくよあれ光乃母よとけう別よかちくと多
城ノ使はわくへきよねかーとくにとけられかーと
ゆくよとくれーと一參と角一又怨う鬼れ多城切る
刀わくハ施亦比鬼治と云又ハ伯耆乃鬼治と云
毛と多城うと多城是ととんや又ば刀後よ多田波仲の
毛とわくよと多城非ナリ波中ハれ光代父なら
毛とく伏あらまとすと云ふや又田村廢院等
亦歎念の事ハ児女代主てわきゑ田村系子と云

之のよ擇て書^キうる妄誕論とかよせすら次殊^ニ於
麻御布^{シテ}之神系圖よ併^サ禁並^{ナニテ}其祀事とあれハ
俗流^ノ相遠^ト知^ヘ一思^フよ徳^ヲ思^フ残切^レ二疾^ハ
古今著^チ聞集^シ小市^ニ魚神^ノを以^テ思^フ同丸^トノ者
牛^ノ腰^ノか^ク生^マ始^テ頃光^トうか^ク刀^トぬひ^テ
ニ^モ伏^シうり^テ射^キう^リ一^ク鬼^ノ同丸^ト刀^トぬひ^テ
頃光^ノ切^カれ頃光鬼^ノ首^ノ残^キれ生^マ死^ム多^カ務^ス
刀^ノ代^シて射^キう^リ後^ハま^ルノ^ハ怖^ハ半^ミ身^ハしも
ウ^ヒト^トレ^ヒは未^キう^リと記^トう^リ此說^ノ後^ハ傳^キ
ア^シキ^ト半^ミ身^ハう^リ一

新公時ハ血氣^{キキ}の勇者^{ヨウジヤ}也

俗流云頃光四天王^ノ肉^ノ公時^トの^リ者^ハ血氣^ノ勇
者^ホ也^カやう壯^{サウ}卒^ト色^{おほ}い^ハう^リし^ハ絶^ハ綱^ハの^モ是
故^ハい^シじ^トり^ハ捕^ハ又云公時ハ山神山始^ハふ^セモ一生
書^シ子^ホちく^ハ頃光^ハ假^ツ修^ハゆ^シこ^トも^トう^シう^シと云
今按^ア新參^サ御^ノ頃^ハ賜^ハ佑^ミ本^ハ室^ノ綱^ハ云^シ多^シ田^ノ持^ハ
守^ハ後^アも^シ四^ト天^モと^モ守^メえ^シう^タの^トモ^ハ
中^ハよ^シ時^トハ見^ハ智^ハわ^リて^シ事^ハけ^ハ綱^ハ
ゆ^シハ^シ新^サみて^ハあ^シか^シ今昔^物俗^ニ持^ハ本^ハ持^ハ本^ハ
キ季^モ武^モ財^トく^ト三^トハ^ハ争^ハ多^シと^ハ紀^シて^ハ綱^ハ事^ハ然^トと^ハ
主^ハ後^ハ復^トく^ト三^トハ^ハ争^ハ多^シと^ハ紀^シて^ハ綱^ハ事^ハ然^トと^ハ

武とて又うとう太平紀妙巻より傳ハ四天王にて北と南と新番とく
ゆも武勇多き右乃三人よ御う教すや傳系圖よりハ故仲文と
大とハ親族承ふ云時よりを代別よりナシテナリテ一えども
ノ有レモ云時より追答より公方別とナシテもんと云う
臆病とナシテと云事ハ細胸伏せと申す事あり民
車然とくとたれのほれハいりて死に覺ゆてう
なりかかく汝一毛臆病されとキヘモ汝公
かく素一毛と用ひとくせしと以て又意
タクうちわ車と申す事と大車然とくとく車
者ハ物うちわがまと車よりかくねて大車よかくと
之をアーテナリ詞不
可極二大車にて乃と六世代称也

而ち事と相違せず又云時ハ山神山姑タマト
一生毒多めく猶光明没後よ逐電タマヒトモリテ後例
ア委化身て割て搔かヨリキロ一海錄雜事云山丈山姑
嶺南皆在一足反踵手足皆三指雄曰山丈雌曰
山姑夜扣人門雄求金繒雌永脂粉也わき山丈
山姑ハ畜類なりと云は公時より生代赤妙小兒
やて詔かくを代てと秋はナリ出一ノれを代す

廣益俗說辨卷十終

